

平成28年度版

中学校

国語

新しい教科書で
いっしょに学んで
いきましょう。

授業をより楽しく、
より自在に

教科書 活用ガイド



教科書の世界へいざなう目次

学年の初めに・学年の終わりに

各学年の目次には教材にちなんだ刺繍をあしらっています。

どの教材がどんなふうに描かれているでしょうか。

生徒といっしょに探して楽しんでください。



「野原はうたう」の
たんぽぽかな。



「扇の的」を
発見！



「故郷」の
レントウがいる。



目次

光村図書

新しい教科書の効果的な使い方

2 「言葉の力」が見える。だから学びたくなる。

巻頭

「学習の見通しをもとう」

4 「読み方」がわかる。だからもっと楽しめる。

巻末折込

「文学的な文章を読むために」

「説明的な文章を読むために」

新しい教科書を活用した授業イメージ

6 「読むこと」

8 「話すこと・聞くこと」「書くこと」

ワンポイントアドバイス

10 こんなとき、どうする？

この活用ガイドでは、新しい教科書で特に新しくなっ
たページについて、「いつ」「どのように」使うかを、
実際の授業場面をもとに、先生が生徒に語りかける形
で紹介しました。

光村図書出版株式会社 代表者 常田寛

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL:03-3493-2111(代表) 光村図書ウェブサイト: www.mitsumura-tosho.co.jp

学年の巻頭に、各領域、各教材で具体的に
どんな言葉の力をつけるのかを一覧にしました。

マークを見ると、同じ言葉の力をいくつもの教材で学ぶことがわかりますね。国語は何度も繰り返しながら、言葉の力を積み重ねていくのです。

言葉の力を確かめる

この欄にある「段落の役割」を理解する、「要旨を捉える」などが、これから学んで身につけていく言葉の力です。

学年の初めに
見通しをもつ

一年間を見通す

一年間の国語の学習をこの表を使って見通してみましよう。読んでみたいと思った文章はありますか。

文種・活動

教材名

学習事項
(言葉の力)

教材で身につけたい
言葉の力

学習のポイント
(焦点化したい力)

1年 P11

読書・情報				説明・記録						読むこと
読書コラム	読書案内	読書活動	情報コラム	情報	説明	記録	随筆	説明	説明	
本との出会い	本の世界を広げよう	私が選んだこの一冊 読書紹介をしよう	本から情報を集める インターネットを利用する 新聞の紙面構成の特徴を知る	情報の集め方を知ろう	桜守三代	幻の魚は生きていた	シカの「落ち穂拾い」 — ファイルドノートの記録から	空を見上げて	ちよつと立ち止まって	教材 ダイコンは大きな根？
93	90 197	88	64 63 62	60	190	164	118	73	49	44
										音読・朗読 声に出して読む
										語句の理解 文脈の中の語句の意味
										文章の理解 段落の役割、段落の関係
										中心と部分、事実と意見
										要約する、要旨を捉える
										自分の考えをもつ 構成や展開について
										表現の特徴について
										文章を読み、ものの見方や考え方を広げる
										読書と情報 情報の集め方を知り、適切に読み取る
読書への興味をもつ	伝えたい内容に合わせて 文章を引用し紹介する		情報の集め方を知り、 目的に応じた方法を考 える		文章の要旨を捉える 人物の生き方を触れ、 自分の考えを深める	文章の要旨を捉える 人物の生き方を触れ、 自分の考えを深める	事実と意見の関係に注 意して読む	言葉について、自分の 考えを深める	文章の構成に着目して 読む	段落の役割に着目して 読む
										学習のポイント ●印は、「学習の窓」で 解説している事柄

系統的に振り返る

一学期、どんなことを学んできたかな。「学習のポイント」を見ながら、学んだことを振り返ってみましょう。わからないものがあつたら、もう一度その教材の「学習の窓」などを見てみるということです。

折々の学習のまとめに
振り返る

次学年につなげることも

二年生の最初には、「いつも
気をつけよう」(教科書13ペー
ジ)があり、一年生で学んだ
ことをまとめています。確認
しながら進めていきましょ
うね。

(↓6ページ)

習得し、活用する

「文章の理解」という項目を見ると、一つ前の「ダイコンは大きな根？」でも学んでいますね。もう一度思い出してみましよう。

教材を学ぶときに
身につける力を知る

「学習のポイント」を押さえる

「ちよつと立ち止まつて」では、こんな力をつけていきます。特に大事な点は下段に書いてある「文章の構成に着目して読む」ことです。これは教科書53ページの「学習の窓」で解説されているので、しっかり身につけましょう。

なるほど。国語って、
こういう力を身につける
ために学んだ。

「読み方」がわかる。 だからもつと楽しめる。

巻末
折込

「文学的な文章を読むために」
「説明的な文章を読むために」
教科書巻末の折込に、文章をより深く読み取るための観点となる学習用語を、当該学年の教材の用例と共にコンパクトにまとめました。

日々の授業の中で 学習用語を学び、活用する

観点を意識して読む

「なんとなく」ではなく、例えば「語り手は」「場面は」「描写は」といった観点を念頭に置いて読むと、文章の特徴がよりはっきり見えてきたり、新たなおもしろさに気づいたりすることが出来ます。

学習用語に立ち止まる

「学習」(手引き)に「情景描写」という言葉が出てきますが、「情景描写」とはどのようなことだったのでしょうか。後ろの解説を見て確かめてみましょう。

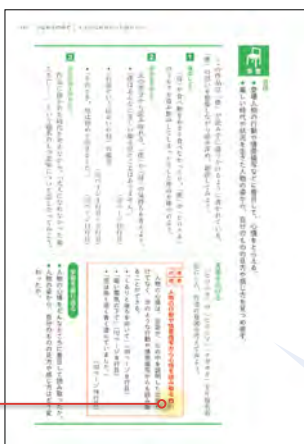
読み方を整理する

「情景描写」の他にも「登場人物の行動」や「会話文」に着目すると、「登場人物の心情」を読み取れることがわかりますね。この観点にも気をつけて、もう一度読んでみましょう。



学習(手引き)

1年 P115



1年 巻末折込 P327



日常の読書に 読みの観点を生かす

普遍的な読みの力がつく

ここに挙げられている①から⑧の項目は、他の作品と読み比べるときや、普段、文章を読んだり批評したりするときの観点にもなります。学んだ観点を生かして読んでみましょう。

この作品は「語り手」が魅力的だと思う。「情景描写」も……

なるほど。こうした言葉に着目すると、なぜおもしろかったかはつきりわかるな。



7 登場人物の心情

登場人物の心情は、置かれた状況を踏まえて、そのような心情になった理由と共に捉える。場面ごとの心情を押さえたなら、作品全体で心情がどのように変化しているかも捉えよう。心情は、次のような点から考えられる。感情を表す言葉や心の中で思ったことが語られる部分

例 「うれしい」「悲しい」「満足」「不満」「胸がいっぱいだ」「気をもむ」(慣用語)

「心の中に春風が吹いたようだ」(比喩)

「これで桜が全部散ってしまったな」と言え

ばよかったとか、『花曇りって何。』とき

きはよかったとか。『花曇りの向こう』

例 「お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそっととてた。」

例 「私は戸部君をにらんだ。『なんか用?』」

例 「星の花が降るころに」

例 「白い乾いた一本道」

例 「大人になれなかった弟たちに……」

例 「花曇りの向こう」

いつも気をつけよう

「アイスプラネット」
P18

アイスプラネット



一年生の文学作品でどんな言葉の力を学んできたのか「いつも気をつけよう」で確認してみよう。

目標を共有する

●「学習の見通しをもと」
を使って、この作品で身
につける言葉の力をみんな
で確認しておきましょう。

●この作品で何を学ぶのか、
作品冒頭の「目標」を見て
みましょう。

「学習の見通しをもとう」
P10

●手引きや「学習の窓」、折込で学びを深める

●手引きの2では心情の移り変わりを読み取ります。まず「僕」と「ぐうちゃん」の関係について「学習の窓」を参考に考えてみましょう。

●「登場人物の心情」はどんなふうに捉えればよいか。折込「文学的な文章を読むために」を見て確かめてみましょう。

こうアレンジ!

●独自の言語活動を設定し、「学習の窓」でポイントのみ押さえる
設問の前のリード文で示した言語活動は一例。クラスや生徒の実態に合った言語活動や発問に変えて授業を行うことも可能。

●「学習を広げる」(資料編)の読み物教材を活用する

資料編にある読み物教材と読み比べて学習を深めたり、本教材と差し替えて授業したりすることも有効。

資料「ゼブラ」
P264

P264

毎時間の学習の
まとめを書く

残り五分。今日の授業を通して、「わかったこと」「考えたこと・思ったこと」をノートにまとめておきましょう。

「書き留める」一年 P21

P21

「アイスプラネット」(18ページ)と合わせて読むのもよい。

「アイスプラネット」(18ページ)と合わせて読むのもよい。

自分の言葉で振り返る

「学習を振り返る」を参考に、この作品で「何をどのように学んだか」を振り返ってみましょう。ノートやプリントを見直しながら、自分なりの言葉で簡単にまとめてみましょう。

授業のまとめ

学習の終わりにふり返ってまとめを書くと、学びが整理され、身についた力を確認^{かくにん}できる。

- 学んだこと
- 新しく知ったこと
- 感想や課題 など

「話すこと・聞くこと」 「書くこと」

ここに示した流れ・発問は一例です。
さまざまな工夫が可能です。

【例】一年「根拠を明確にして魅力を伝えよう」(書くこと)

練習教材「感じたことを整理する」 P179



練習教材と結び付け、課題意識をもつ

練習教材では、絵を見て感じたことを観点ごとに整理する学習を行います。
ここで学んだことを生かして、この後、実際に鑑賞文を書いていきます。

こうアレンジ!

- モデル文を使い、気づきを話し合うところから始める
最初にモデル文を見せ、鑑賞文とは何かを話し合わせる材料
として、学習のゴールイメージをもたせたりすることも可能。
- 「次へつなげよう」で評価の観点を先に示す
教材末の「次へつなげよう」を授業の最初に用い、評価の観
点や工夫すべき点を確認しておくこともできる。

学習の見通しをもつ

本教材「根拠を明確にして魅力を伝えよう」 P180



学習の見通しをもつ

ここでは「目標」にある言葉
の力をこんな流れで身につけて
いきます。特に、黄色い部分
の、実際に鑑賞文を書く段階
と、マークのある読み合
う段階が大切です。

資料「発想を広げる」 P284



- 題材が見つからない生徒には、
「学習を広げる」(資料編)にある
「発想を広げる」なども有効。

学習・活動に取り組む



資料「感想を表す言葉」 P295



モデル文や「学習の窓」で学びを深める

- 今、どの段階にいるかな。「学習の見通しをもつ」でもう一度確かめて
おきましょう。
- 実際に書く前に、モデル文とその下の注や「学習の窓」を参考に、鑑賞
文のポイントを確認してみましょう。
- 「感じたことを表す言葉」にある表現を意識して使ってみましょう。
マークの資料にはさらに「感想を表す言葉」の一覧も載っています。

こうアレンジ!

- 本教材の流れに、練習教材を組み込む
実際に文章を書いたり話し合ったりする直前に、
練習教材を使って留意点を押さえることも可能。
●音声CD(🎧)やデジタル教科書などを
使ってイメージをもつ

振り返り、次へつなげる

- 「次へつなげよう」をもとに、学んだことを振り返って
みましょう。次はどんな点をもっと工夫したいかな。
●今回学んだことはどんな場面で生かせるでしょう。
他教科では……日常では……。

学習を振り返る

A 多くの本を紹介することに加え、読書の魅力を伝えるコラムがあります。

Q 本に親しむ生徒を育てるには？

1年 P93	本との出会い	宮崎 駿 (映画監督)
2年 P89	たまには、少し変わった本を	柴田元幸 (翻訳家)
3年 P99	ためになるってどんなこと？	森 絵都 (小説家)
3年 P192	読書記録をつける	大江健三郎 (小説家)

映画監督の宮崎駿氏はじめ著名な人々が、自身の読書体験や本の魅力を中学生に向けて語った「読書」コラムを新設しました。

多くの本をテーマ別に一覧にした「読書案内」と合わせて紹介すると、読書への意欲をより高められます。

1年 P93



ワンポイントアドバイス

こんなとき、どうする？

Q 1年生の学年開き、スムーズにスタートを切るには？

A 「言葉に出会うために」(1年冒頭)が有効です。

ノート例や辞典の使い方は、四月のガイダンス以外にも、学年の折々に確認できます。



1年 P13 ~ 24



1年最初の教材は、全て平仮名の詩で、楽しく、親しみのあるものになっています。

発音・発声の基礎を学ぶ教材では、緊張した雰囲気を和らげる活動を取り入れています。

Q 多様な言語活動・題材で授業のバリエーションを広げるには？

A 「学習を広げる」(各学年 資料編)がヒントになります。

当該学年の言語活動別にテーマ例を示す形に変わりました。身の回りから社会へ、学年が上がるにつれてテーマも広がっていきます。

2年 P288



話し合いや文章の形態、インタビューのしかた、読書感想文の書き方など、言語活動の型をコンパクトにまとめているので、必要に応じていつでも活用できます。

3年 P272



3年 P270



3年 P14 ▶「私の評価」×モ
▶「アンソロジー」



2年 P14 ▶「情報メモ」
▶「創作メモ」



意見文、物語創作(2年)、批評文(3年)など、当該学年の学習を行う際の素材にもなります。

1年 P24 ▶「言葉の手帳」
▶「読書記録」



例えば1年の「言葉の手帳」。好きなノートを1冊用意し、いつでも自由にメモします。1年間続けると、達成感や自信につながります。

A **Q** 年間を通して書く力をつけるには？
「続けてみよう」(各学年冒頭)を新設しました。